

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

令和元年 11月 14日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員

藤原 広
阪井 昌行
檜垣 美良

次のとおり行政視察をしたので報告します。

1. 視察期日

令和元年 10月 30日（水），31日（木），11月 1日（金）

2. 調査項目

香川県高松市 「たかまつユニバーサルマップ」について

滋賀県米原市 「公共交通施策」について

兵庫県神戸市 認知症対策「神戸モデルの推進」について
「神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例」について

3. 参加議員

藤原 広・阪井 昌行・檜垣 美良 3名

香川県 高松市

■調査項目

たかまつユニバーサルデザインマップの取り組みについて

- ・調査対応者

市民政策局 ユニバーサルデザイン推進室

次長 蓮井博美

企画員 小川口彰

- ・調査期日

令和1年11月1日（金）午後1時～午後2時

- ・高松市の概要

人口：417,606人

世帯数：186,977世帯

- ・調査目的

公共施設等における車椅子使用トイレなどのバリアフリー情報や、外国語表示の有無などの情報をわかりやすくデータベース化するとともに、その情報を基に施設検索や、地図表示のシステムを構築。

- ・調査内容

【高松市からの説明】

公共施設等における車椅子使用トイレなどのバリアフリー情報や、外国語表示の有無などの情報をわかりやすくデータベース化するとともに、その情報を基に施設検索や、地図表示を行うシステムを構築。この施設及び地図情報をインターネット上に「たかまつユニバーサルデザインマップ」として公開、本サイトには、スポーツ施設やコミュニティーセンターなどの公共施設のほか、駅や乗り場、小売店、宿泊施設等の民間施設など、約750施設の情報を掲載。

●「たかまつユニバーサルデザインマップ」のポイント

特徴1：操作や内容が直観的に分かりやすい

- ・「かんたん検索」「地図から検索」で用意に検索
- ・ピクトグラムによる施設情報の表示

特徴2：心のユニバーサルデザイン情報を掲載

- ・手話・筆談等への多言語対応などの掲載
- ・スタッフの介護依頼など設備を伴わない、心のユニバーサルデザイン情報の発信

特徴3：広域的なユニバーサルデザイン情報を発信

- ・瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の施設の掲載
- ・中枢中核都市年として、圏域全体のUD機運を醸成

【質疑応答】

（質問）作成に要した期間について。

（回答）平成30年9月から6ヶ月程度で外部委託している。（現場調査込み）

（質問）利用状況（アクセス数等）について。

（回答）平成31年3月26日に公開し、1日あたりの平均約130ページビュー、1月あたりの平均約4,000ページビューの利用がある。

（質問）現在抱えている問題や今後の課題について。

（回答）サイトの利用や満足度の向上につながるためにも、本サイトの掲載施設の情報充実が必要である。（民間店舗が少ない）今後、大学との連携を図り、大学生が調査、推進を行っていく。

（質問）市民の反応について。

（回答）移動等円滑化評価会議四国分科会において、知的障がい者支援施設の方から「毎年行っている遠足を選択するにあたって、今回、UDマップを利用して対象施設を選択することができた。また、調べるにあたって、子どもたちでも簡単操作を行うことができ、大変喜んだ。」との感想をいただいた。

（質問）普及ためにどのような広報をおこなっているか。

（回答）広報への掲載やUD展などのイベントにおいて周知啓発を実施。また、6月に開催した2019中国・中国パラ陸上競技大会の際、連盟のホームページにあわせて、「たかまつUDマップ」のリンクを掲載した。

（質問）UD推進室について。（人員、予算、体制等）

（回答）政策課の中にあり、他の業務と兼務しており、6人いる。平成30年度予算：12,313千円（10,000千円がマップ）大学との調整400万円。

（質問）視覚障がい者への対応として、「音声読み上げ機能」はあるが、該当ページまでどのようにアプローチしているのか。

（回答）低視力の方に対しては、グーグルの音声認識機能において「UDマップ」のページまでの検索は可能になっている。

（質問）視覚障がい者に対してなにか取り組みを行っているか。

（回答）低視力や色覚障がいの方については、マップ内において「音声読み上げ機能」以外に文字の大きさの変更、背景色の変更機能を設けている。

【呉市での展開の可能性】

くれワンダーランド構想の実現のための取り組みの一つとして、日本はもとより世界中から多くの人が集う交流・観光都市を目指すには、呉で暮らす人はもちろん観光に訪れる全ての人の年齢、性別や国籍、障がいの有無等を問わず、自由に、快適に利用でき、行動できるような思いやりあふれる配慮としてユニバーサルデザインマップの作成を提案致します。

ユニバーサルマップは、障がいのある方、高齢者、外国人、小さな子供連れ等が安心して外出できるための情報等をウェブ上で紹介し、食事やレジャー、通院等外出の目的や場所にあわせて検索でき、内容や操作が簡単で、絵文字や外国語表示がされ、だれもが利用しやすいのが特徴です。

今後、呉市においてもユニバーサルデザインの考え方をうい、誰もが暮らしやすいまち、訪れてみたいまちの実現を推進していく。

滋賀県 米原市

■調査項目

公共交通施策について

・調査対応者

米原市議会 副議長 堀江 一三氏
議員 細野 正行氏 (公明党)
地域振興部 米原近江地域協働課 課長 西出 始代氏
土川 徳之氏

・調査期日

令和元年 10月30日(木) 午後1時～午後2時30分

・米原市の概要

人口：39,138人(平成31年4月1日現在)
世帯数：14,506世帯(同上)

・調査目的

呉市は、平成17年に平成の大合併を行い島嶼部が新たに加わり、高齢化率も高まった。また、平成24年に広電バスが呉市域運行を開始し、現在では本市において生活バス・公共交通の在り方が重要な課題となっている為、米原市の公共交通施策事業を参考にさせていただきたいためと調査する。

・調査内容

【米原市からの説明】

・米原市の公共交通状況：路線バス6路線

・乗合タクシー(「まいちゃんタクシー」：デマンド区域運行)

近江地域(旧近江町)・米原地域(旧米原町)・山東地域(旧山東長)・伊吹地域(旧山吹町)、この4町地域が合併し米原市となる。但し、伊吹地区の北部にはまいちゃん号が走っておらず、曲谷線のバス路線だけで公共交通の路線をカバーしている。

それ以外の地域においては、まいちゃん号や路線バスでカバーしている。

市街地はすべてカバーしており、公共交通の空白地域は存在していない。

<平成29年10月に全体的な見直し統一を行う>

上記以外、交通の結節点として

鉄道：米原駅・坂田駅・醒ヶ井駅・近江長岡駅・柏原駅

国道：国道8号線、21号線365号線

高速道路：米原JCT(名神高速道路、国陸自動車道)

東海道新幹線の米原駅があり、近畿・東海・北陸の結節点にもなっている。

○市内全域（伊吹北部地域を除く）乗合タクシー「まいちゃん号」の背景

米原・近江地域が旧町時代より、(旧)まいちゃん号の取り組みをしていた。

- ・ コミュニティバスの運行赤字額の増大化
- ・ 公共交通空白地域における生活交通の確保の必要性
- ・ 彦根米原線の運航廃止への対応

⇒小型タクシーによる区域運行方式を取り入れる。

(※区域運行方式…予約状況に応じて運行ルールが変動するシステム。予約のあった停留所間のみを最短距離で結ぶ。)

○「まいちゃん号」運行概要

- ・ 使用する車両：小型タクシー（乗客数：4人）
- ・ 運航日：年中無休
- ・ 利用料金：大人500円、こども250円
- ・ 回数券（11枚つづり）5,000円（高齢者等3,000円ほか）
- ・ 運行時間帯：6時台～19時台（毎時0分もしくは30分に出発し、出発地点から停留所ごとに時間が定められている。）
- ・ 運行方式：区域運行方式…停留所は市内約500カ所設置している。
予約状況に応じて運行ルートが変動するシステムで、予約のあった停留所間のみを最短距離で結ぶ。

○「まいちゃん号」を利用するには

- ①利用者は各エリア出発時刻の1時間前に事前の電話予約を予約センターに掛ける。
- ②予約した停留所へ（センターよりタクシーを配車）
- ③乗車（複数の人との乗合利用と成る為、目的地の到着時間は運行の都度異なる。）
- ④目的地に到着（帰りの便も同時に予約を入れておく事が必要）

ルール付けとして

- 事前登録は不要（29年の改正で市民・観光客等誰でも利用可能）
- 朝九時までの便の予約は前日21時までに予約を入れる（7月1日改正）
- 予約後に中止する場合は速やかに連絡を入れる。
<運営は事業者（近江タクシー）メーター料金（1人乗車利用金500円）から利用者負担分を除く欠損額を市が助成金として補填している。>

○「まいちゃん号」の特徴

●広範囲をカバーしている（ほぼ市内全域）

予約が入ると、運行事業者の一般タクシーのフロントガラスに「まいちゃん号」のカードを掲示し即運行する。（客待ちタクシーの有効活用・従ってまいちゃん号専用のタクシー車両はなし）

●停留所の感覚が短く、密度が高い。

市内約500カ所に停留所を設置しており、例えば診療所、スーパー、公共施設の他各自治会で3～4カ所程度設置していただいている。停留所の地面には「まいちゃん号」のシートを設置。

●一般タクシー連携利用が可能（乗り換えなしで市外に行ける。）

●タクシー連携利用の開始（平成29年10月～）

まいちゃん号を利用し、そのまま市外の病院や買い物に行きたい
⇒市の境界位置に{市外連携停留所}を設け、市内の端まで乗合タクシーを利用し、市外からメーターは一般タクシーに切り替わる運用を開始
⇒タクシー料金に対する助成制度を創設

【助成の内容】

- ・助成額：12,000円（500円×24枚）
- ・有効期間：年度末まで
- ・交付回数：1年度に1回限り
- ・対象者：高齢者（75歳以上）、障がい者、高校生、妊婦、乳児の保護者
米原市に住民票のある方に限る。（乗合タクシー回数券の購入と同時に申請）

○（旧）カモン号（三東・伊吹地域）の背景

合併前の平成13年3月旧山東町エリアで小型バス（カモンバス）の運行がスタートし、運行エリア拡大のニーズの高まりや、小型バスのランニングコスト等で運航費が増大の背景があり、小型タクシーによる路線不定期運行（予約のある時だけ運行）を行っていた。地域によって運行方法等が異なっていたが、平成29年の見直しの時に（新）「まいちゃん号」の方式に統一した。

その背景として、下記3点があった。

- ・運行区域外で、乗合タクシー運行希望の声が拡大（バスでは入ることの出来ない集落内での運行）
- ・市内で乗り換えせずに行ききをしたいたいといった意見。
- ・「まいちゃん号」はカモン号より満足度が高い。

○コミュニティバスについて

米原市内の路線数：6路線

- ・米原単独路線（曲谷線23km、梓河内線8km、米原工業団地線6km）
- ・米原市長浜市共有路線（伊吹登山口線22km、近江長岡線17km、木之本米原線31km）

○コミュニティバスの特徴

●路線の主要利用

- ・乗合タクシー未導入地域の交通手段（通院、買い物など）
- ・観光地（伊吹山）を登山客が利用
- ・児童の通学利用
- ・工業団地への通勤利用

●小判手形

- ・バス会社企画の定期券で65歳以上の高齢者が対象。6ヶ月9,300円の購入で、1乗車100円で利用できる。
- ・米原市では、70歳以上に対し半額の助成を行っている。（4,650円）

○バス・乗合タクシーの財政負担額の推移

平成29年度から平成30年度にかけて「まいちゃん号」の見直しを行ったが、財政負担としては増えている。バス・乗合タクシーの補助額として1,100万円程度の補助を行っている。

○今後の主な課題等

●財政負担の増大（持続可能な公共交通）

- ・ コミュニティバス運行経費の増大と利用者の減少
 - ・ 乗合タクシーの利用者が急増（1.5倍）し、財政負担が急増（1.8倍）（1人当たり輸送コストは乗合タクシーの方がバスよりも大）
- ⇒そのため、乗合タクシーの乗合率の向上、バスの利用促進を目指す。
- ・ 利便性と効率性のバランスを踏まえた再編が必要。

●乗合タクシー利用者急増による慢性的車両不足（特に午前中に目立つ）

- ・ 予約受付時間の見直し（以前30分前から1時間に変更）
- ⇒市民利便性の低下
- ・ 乗合率の向上、ドライバーの確保（タクシー・バス共に不足）

●その他

- ・ 乗合における電話以外の予約方法（高齢者、聴覚障がい者等）
- ※乗合タクシーについて、利用者からは総じて便利だという声が多いが、細かい運用面での意見・要望（受付時間、電話予約、停留所の設置場所）は時折いただく。
- ※市民意識調査においては、公共交通施策への不満度がH29:36.1%→R元:38.4%に増加
- ⇒市民意識調査直前に受付時間を30分から60分変更し、利用料金を300円から500円に変更した事が増加の要因と推測される。
- しかしながら、県:70.7%に比べると低い値にある。

○その他の取組

●鉄道を活かした湖北地域振興協議会

湖北地域における東海道本線、北陸本線、湖西線の利便性の向上と鉄道を活かした湖北地域の振興・活性化を図る為、その方策を協議するとともに必要な事業を実施する事を目的とする。

構成団体：長浜市（事務局）米原市、高島市、滋賀県

●活動内容

- ①JR西日本、JR東海への要望活動
- ②琵琶湖乗状線を活用した集客・交流創造事業の実施（パンフ作成等）
- ③北びわこエリア地域公共活性化推進事業の実施（鉄道フォーラム等）
- ④「SL北びわこ号導行関連事業」の実施（宣伝、イベント等）

●北びわこ広域レンタサイクル

二次交通機能の充実の一環として、北びわこ地域（米原市、長浜市、高島市）の各駅周辺で広域レンタサイクル事業を展開。

米原市内2駅周辺で実施しNPO法人に坂田駅はシルバーへの委託実施。（米原駅は現在休止中）

- ・貸出量：500円（電動：1,000円）
- ・乗捨料：800円
- ・貸出実績（米原駅2駅）：H30年度427台（前年度より212台アップ）
- ・乗捨実績（同上）：H30年度46台（前年度より13台アップ）

●米原駅サイクルステーション検討事業・社会実験

米原駅の徹底活用の一環として、駅から県が推進する自転車よる琵琶湖1周（ビワイチ）を楽しめるレンタサイクル事業を検討する為、当協議会で社会実験を実施。（H27年度）

- ・期間：H27. 9～11月の土日祝32日間
- ・貸出実績：174台

○米原駅サイクルステーション（平成28年度整備）

●実施団体

- ・NPO法人五環生活（滋賀県箱根氏）
- ・平成28年10月よりサイクルステーションを営業
- ・営業日：4月から12月中旬、2月中旬から3月末（水曜日定休日）
- ・営業時間：9時から17時まで

●サイクルステーションの整備（ビワイチの拠点整備）

- ・米原駅の利用促進を目指し、駅の活用方法を模索している中、駅直結のレンタサイクルに着目をする。
- ・滋賀県と米原市（国）の補助金（計800万円）を活用し、五環生活がサイクルステーションを整備。800万円+自己資金で屋内外の倉庫、事務所、シャワー室、レンタサイクルの車両・備品、広報費用を捻出。
 <米原市・・・地方創生加速化交付金を活用した為しの負担なし>

●サイクルステーションの運営について

- ・米原市と締結している協定書に基づき、NPO法人五環生活運営。（市からの運営助成等はなし。スポーツバイクのレンタサイクル事業収益で運営）
 ※北びわこ広域レンタサイクルとは別事業。
- ・貸出台数：H30年2,648台（前年度2,148台）
- ・利用料金：3,800円より（スポーツバイクのため、他より割高）

【質疑応答】

Q:停留所を500ヵ所設置しているが、途中で乗り降りする事は出来るのか。

A:基本的には降りられない。停留所から停留所の乗降が基本的なルールである。

Q:1回の乗車料金（500円）を払えば、どこまでも行くことが出来るのか。

A:基本的には500円である。ただし、西地域、東地域の中であれば500円であるが、地域をまたぐ場合は距離に応じて500円ずつ加算になる。回数券を使用するのであれば、最大で2,000円（回数券4枚分）の負担をいただくシステムに成っている。その後は、通常のタクシー料金に切り替わる。

Q:先程の説明では、タクシー会社の参入は一社のみとあったが、ほかには手が挙がらなかったのか。また、他社とのトラブルはなかったのか。

A:通常のタクシーは、道路運送法上では一般事業で通常事業である。しかし、乗合事業はバス路線と同じで、乗合の免許がないとできないため、長岡市内では近江タクシーの一家しか免許を持っていないため、一家のみとなった。「まいちゃん号」は陸運局に届けを提出し路線バス的一种である。

副議長から一言

料金体制についてだが、私は伊吹地区の麓に住んでおり米原駅まで利用すると1,500円掛かるが、実際の料金メーターは6,000円程になっている。「6,000円-1,500円=4,500円」の差額が行政負担となっており、行政負担軽減のために、いかに乗合数を増やしていくかが大きな課題となっているのが現

Q:低床バス(ノンステップバス)の導入について、米原市における対応策や考え方をお聞かせ願う。

A:利用者からも低床バスの導入について要望する声も上がってきており、バス車両の更新時にはバリアフリー対応の導入を順次していくようにしている。

Q:米原市における低床バス保有数ほどのくらいか。

A: 運行しているバスの中で、2台が低床バス対応になっていない。

<高齢者・体の不自由な方にとっては大変優しい対応だと議員団一同感動>

Q:訪問する前に御市のホームページを閲覧すると、トップ画面に「まいちゃん号」の紹介がしてあり、力をいれている事が、伝わってきた。市民の方が移動しやすい様に対応されていると感心したが・・・・・・・・

A:まいちゃん号は、観光客・出張等で来られた県外の方にも利用していただいている。当初は誤解もあったが、公共交通の観点から誰でも乗車していただけるシステムとなっている。しかし、今後の課題は出来るだけ乗合をしていただけるよう、取り組んで行くことである。

【呉市での展開の可能性】

呉市においては、米原市との人口比率が異なるが、米原市が取り組んでいる、公共交通は大変参考になる事業かと思える。

特に、山間部・島嶼部において乗合タクシーを「まいちゃん号」のような導入を行うと、通院・買い物等に気軽に利用される事が予想される。

また、最近では、生活バスを利用される高齢者の方から低床バス(ノンステップバス)の導入を強く要望する意見が寄せられるようになった。時代に即応した取り組みとして、また高齢化率の高い呉市にとって無視できない課題ではないかと思われる。来年東京で行われるオリンピックに向け、東京都では予算を取り、順次新車のノンステップバスを導入すると聞いている。中古でもよいから(呉を走っているバスよりはるかに新しいと思われる)購入し、市民の要望する低床バス推進に向けて取り組んでいただくよう、強く要望するものである。

一方で、行政負担の増大も懸念材料の一つになるのではないかと、米原市の説明を受けて強く感じたのも否めない事実である。いずれにしても、市民ファーストの施策となるよう、当局に働きかけて参りたい。

兵庫県 神戸市

■調査項目

認知症対策「神戸モデルの推進」について

「神戸市認知症の人にやさしい街づくり条例」について

・調査対応者

神戸市保健福祉局 高齢福祉部 介護保険課 認知症係長 中原 啓詞
認知症係 山本 真理

・調査期日

令和元年 11月 1日（金）午後1時～午後2時30分

・神戸市の概要

人口：1,524,422人

世帯数：717,681.7世帯

・調査目的

認知症の人にやさしいまち「神戸モデル」のような施策、「神戸市認知症の人にやさしい街づくり条例」等、認知症施策の先進事例を調査し、呉市での施策の参考にさせていただきたいため。

・調査内容

【神戸市からの説明】

○認知症とは。認知症の疾患別割合を円グラフで説明。

アルツハイマー型認知症67.6%、血管性認知症19.5%、レビー小体型型認知症4.3%、その他8.6%

○主な疾患ごとの特徴の説明。

○神戸市の認知症高齢者の現状の説明。

○神戸市認知症の人にやさしい街づくり条例の制定の経緯の説明。

○平成28年9月神戸市でG7保険大臣会合開催「神戸宣言」に認知対策をより推進していくことが盛り込まれる。第2の制定の経緯

○24回の条例制定に向けた会合を開き、平成30年4月施行、認知症に特化した条例は政令市初

○条例制定の（目的）認知症の人にやさしい街の実現

（基本理念）安全に、かつ、安心して暮らし続けられるまち。

○神戸認知症の人にやさしい街づくり条例の4本柱の説明。

①予防及び早期介入

②自己の救済及び予防

- ③治療及び予防
- ④地域の力を豊かにしていくこと

○神戸モデルとは、具体的に説明。

- ①新たな診断制度
- ②新たな救済制度の説明

○診断助成制度の流れ

- ①受診券の申し込み（受診券は自宅に郵送）
- ②認知症機能検診（第1段階）の受信
- ③認知症機能の精密検査（第2段階）の受信
- ④助成金（第2段階）の申請

自己救済制度の申し込み

○診断助成制度の等の実施状況

申し込み状況（令和元年9月30日まで）

申し込み数 11,404人

受診券発送数 10,748人

○事故救済制度とは

- ①賠償責任保険に市が加入
- ②事故があれば、24時間365日相談
- ③所在が分からなくなった際の、駆け付けサービス
- ④事故に遭われた市民に見舞金を支給

○全国初の神戸モデル

- ①「賠償責任保険」と「見舞金」の違い
- ②住所地に基づく場合分け
- ③見舞金等の内訳
- ④付帯事業
- ⑤認知症「神戸モデル」の費用と財源
- ⑥認知症診断助成制度等に関する広報
- ⑦「受診券」の申し込み方法

【質疑応答】

Q: 認知症の人にやさしいまち「神戸モデル」の策定に至った経緯について。

A: 認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりを目指すため。

Q: 新たな診断助成制度内容について。

A: まずは、検診をして疑いのある方には精密検査を受けていただき、2段階で自己負担のない仕組みを作る。

Q: 新たな事故救済制度で加入した保険の利用状況について。

A: 今のところ大きな賠償はない。

Q:専用コールセンターは市の職員、保険会社等誰が行っているのか。

A:三井住友海上保険会社に3年間で委託している。また、状況を把握するために検証機関を持っているが4社から相談をいただき、条件を満たした会社にした。

Q:駆けつけサービス（GPSの導入）の広報はどのように行っているのか。〔呉市もGPS導入の助成を行っているが、周知不足により利用に結びついていないため。〕

A:民間会社に委託し、主体的に広報をしていただいている。

Q:神戸モデルの市民負担（年間約400円）の理解をどのように得たのか。

A:いろいろなご意見もあったが、大半の方に理解をいただいた。

Q:広報を様々な場所で行っているが、効果的な情報発信はどれだったか。

A:各機関にお願いをしており、どの情報発信も地域の方の反応が大変良かった。

Q:小中学校の授業で「神戸モデル」に関するカリキュラムを盛り込んでいるか。

A:授業で行っているところもあるが、大人を重点に行っている。

Q:若年性認知症の割合〔人数等〕はどのくらいか。

A:神戸市の人口が152万人で、認知症の方は神戸市では約400人、兵庫県では1,600人となっている。

Q:若年性認知症についての対策や施策等はあるのか。

A:お日様の集いを月1回行っている。

【呉市での展開の可能性】

呉市においては、認知症ケアパス等、予防、自立、見守り、手助け、の相談窓口はあるものの、認知症患者の方が事故等を起こしても、認知症患者に特化した賠償保険等はない。今後、認知症患者の増加が見込まれているため、呉市においても「神戸モデル」のような施策が必要だと感じた。施策を展開していく中で、財源の確保が厳しいと感じている。神戸市では、広く市民の方に負担（400円）をいただいていることから、同意を得ることは難しいとは思いますが、財政が厳しい呉市でも市民負担を取り入れることも検討が必要である。

また、認知症に関する条例等がないため、「神戸市認知症の人にやさしい街づくり条例」のような条例を制定し、認知症患者等が安心して生活できるよう、呉市も条例制定を検討する必要があるように感じた。